

科目名	基本技術Ⅰ			単位(時間)	1(30)	
担当講師名	赤穂 美紀 〔看護師〕 土田 絵里香 〔看護師〕			対象学年	30期生 1年次	
				DP	1・2・4	
ねらい	看護技術や医療における安全に関する基礎的知識を学ぶ。 また、患者の身体状況を把握できる基本的知識とフィジカルアセスメントの技術を身につけ、健康状態の評価とマネジメントできる能力を養う。					
科目目標	1 看護技術とは何かわかる。 2 看護記録・報告の目的・機能が理解できる。 3 コミュニケーションの意義・方法がわかる。 4 安全確保と感染防止のための基礎知識がわかる。 5 フィジカルアセスメントの基礎知識と基本技術がわかる。					
授業内容	次	単元	内容	形式	担当者	備考
	1	看護技術と看護記録	1 看護技術とは 2 科学的根拠と安全に基づく技術 3 看護記録の目的と機能 4 看護記録の構成	講義	赤穂	
	2	コミュニケーション技術	1 関係構築のためのコミュニケーション	講義	赤穂	
	3	安全確保の技術	1 安全確保の基礎知識 2 看護場面での医療事故の構造と防止の視点 3 KYTの基礎と医療安全カンファレンス	講義 GW	赤穂	
	4					
	5	感染防止の技術	1 感染防止の基礎知識 2 標準予防策 3 感染経路別予防策 4 感染性廃棄物の取り扱い 5 無菌操作★	講義 GW	赤穂	
	6					
	7	フィジカルアセスメント	1 ヘルスアセスメントとフィジカルアセスメント 2 フィジカルアセスメントの意義と看護 3 バイタルサインの観察とアセスメント 1) バイタルサイン測定★ 2) 生体情報のモニタリング 4 フィジカルイグザミネーションの基本技術 (問診、視診、触診、聴診、打診) 5 系統別のフィジカルアセスメント技術 1) 消化器系★ 2) 呼吸器系★ 3) 循環器系★ 4) 神経系★	講義 演習	土田	
	8					
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
	15		試験			
テキスト	<eテキスト> 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 医療安全 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 < テキスト> 看護がみえる③フィジカルアセスメント(メディックメディア) <参考書>					
学習を支える 情報	1 すべての看護に共通する基本を学びます。 2 知識や机上の学習だけでは習得できません。 テキストにある動画も活用し、具体的にイメージしたり、ポイントや留意点などを理解した上で演習に臨みましょう。 根拠に裏付けされた確実な技術を身につけられるよう、反復練習しながら学習していきましょう。 3 ★は演習を行います。					
評価	1 筆記試験で評価する。 2 技術を伴う演習は、すべて出席することが試験を受ける条件となる。 3 演習に必要な学習と演習にふさわしい身だしなみを整えることが、演習参加の条件である。			試験	看護記録 10	
					コミュニケーション 10	
					安全 15	
					感染 15	
					フィジカル 50	
				合計	100	

科目名	基本技術Ⅱ			単位(時間)	1(30)		
担当講師名	土井 恵子[看護師]			対象学年	30期生 1年次		
				DP	1・2・3・4		
ねらい	1 健康障害のある対象を理解し、対象の願いに沿った看護を科学的根拠をふまえて看護展開できる基礎的能力を養う。 2 パフォーマンス課題をとおして、6つの力(気づく力・観察力・クリティカルシンキング力・行動計画を立てる力・実行に移す力・客観的に評価する力)を身につける。						
科目目標	基本的な看護過程の展開ができる。						
授業内容	次	単元	内容	形式	担当者	備考	
	1	看護過程とは	看護過程の構成要素	講義	土井		
	2		看護過程を展開する際に基盤となる考え方★				
	3	患者のより良い状態を目指し根拠に基づいた看護	患者に関心を向け、コミュニケーション技術を持ち、その人全体を把握する。得られた情報の意味づけをし、根拠に基づいた看護を考える。★	講義 演習 GW			
	4						
	5						
	6						
	7						
	8						
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
	15		試験				
テキスト	<eテキスト> 基礎看護技術Ⅰ NANNDA-I 看護診断2024-2026 <テキスト> 看護がみえる④看護過程の展開(メディックメディア) <参考書>						
学習を支える情報	1 パフォーマンス課題が提示され、看護過程の展開技術(問題解決の思考展開)を学びます 2 看護過程では、ヘンダーソンの理論を用います。 3 グループワークでは積極的に意見が出せるように事前準備をして臨みましょう。 4 テキストの動画などを活用し、理解を深めましょう。 5 ★演習をします。						
評価	1 成績評価並びに単位の認定に関する規程・細則に準ずる。			試験	筆記 70		
				課題	パフォーマンス 30		
				合計	100		

科目名	生活援助技術Ⅰ			単位(時間)	1(30)	
担当講師名	赤穂 美紀〔看護師〕			対象学年	30期生 1年次	
				DP	1・2・4	
ねらい	対象の安全で安楽な環境を整え、日常生活を支える基本となる看護技術を学び、習得することで実践力の向上を目指す。また、看護の対象を生活者と捉え、その日常生活を整えるための看護技術と、活動・休息の援助のための看護技術の基本を学ぶ。					
科目目標	1 環境を整えるために必要な基礎的知識を理解し、援助技術を習得できる。 2 活動・休息の援助のために必要な基礎的知識を理解し、援助技術を習得できる。					
授業内容	次	単元	内容	形式	担当者	備考
	1	環境を整える技術	1 環境とは 2 病室環境のアセスメント 3 療養環境の調整と整備 1)環境整備★ 2)臥床患者のリネン交換★ 4 環境の意義と看護	講義 演習	赤穂	
	2					
	3					
	4					
	5					
	6	活動と休息の援助技術	1 基本的活動と援助 2 活動と休息(睡眠)のアセスメントと援助 3 安楽を保つための援助 1) 体位変換とポジショニング★ 2) リラクゼーション(ハンドマッサージ)★ 3) 電法★ 4 移乗と移送の援助 1) 起き上がりから車椅子への移乗★ 姿勢保持★ 2)ストレッチャー移動 5 活動・休息の意義と看護	講義 演習		
	7					
	8					
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
	15		試験・技術試験			
テキスト	<eテキスト> 基礎看護技術Ⅱ 根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術 <テキスト> 看護がみえる①基礎看護技術 <参考書>					
学習を支える情報	1 患者の基本的ニーズを捉えその人の生活を整える技術を学びます。 2 学習を進めるにあたり「形態機能学Ⅰ、Ⅲ」等の基礎知識を活用していきましょう。 3 患者の思いを知るにはグループでの意見交換が役立ちます。 4 テキストにある動画を活用し、具体的にイメージしたり、ポイントや留意点などを理解した上で演習に臨みましょう。 根拠に裏付けされた確実な技術を身につけられるよう、反復練習しながら学習していきましょう。 5 ★は演習を行います。					
評価	1 技術を伴う演習は、全て出席することが試験を受ける条件となる。 2 成績評価並びに単位の認定に関する規程・細則に準ずる。 3 演習に必要な学習と演習にふさわしい身だしなみを整えることが、演習参加の条件である。			試験	環境 30	
					活動 50	
				技術試験	20	
				合計	100	

科目名	生活援助技術Ⅱ			単位(時間)	1(30)	
担当講師名	土井 恵子[看護師] 伊藤 知恵[看護師]			対象学年	30期生 1年次	
				DP	1・2・4	
ねらい	対象の安全で安楽な環境を整え、日常生活を支える基本となる看護技術を学び、習得することで実践力の向上を目指す。また、看護の対象を生活者と捉え、その日常生活を整えるために必要な清潔・衣生活の看護技術の基本を学ぶ。					
科目目標	1 清潔と衣生活の援助のために必要な基礎的知識を理解し、援助技術を習得する。					
授業内容	次	単元	内容	形式	担当者	備考
	1	清潔・衣生活の援助技術	1 清潔援助に必要な基礎知識	講義 演習 GW	土井 伊藤	
	2		2 清潔・衣生活のアセスメント 3 清潔行為・衣生活の自立困難な人への援助 1) 全身清拭と寝衣交換★ 2) 洗髪★ 3) 陰部洗浄★ 4) 手浴・足浴★ 5) 口腔 ケア★ 6)シャワー浴★			
	3					
	4					
	5					
	6					
	7					
	8					
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
15		試験・技術試験				
テキスト	<eテキスト> 基礎看護技術Ⅱ 根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術 <テキスト> 看護がみえる①基礎看護技術(メディックメディア) <参考書>					
学習を支える情報	1 事例をもとに安全安楽自立を考えた援助を学びます。 2 患者の基本的ニーズを捉えその人の生活を整える技術を学びます。 3 学習を進めるにあたり「形態機能学Ⅲ」「微生物学」等の基礎知識を活用していきましょう。 4 グループで意見を交換しながら、患者の思いも大切に考えていきましょう。 5 テキストにある動画を活用し、具体的にイメージしたり、ポイントや留意点から学びを理解した上で演習に臨み技術を確認して演習に臨みましょう。 根拠に裏付けされた確実な技術を身につけられるよう、反復練習しながら学習していきましょう。 6 ★は演習を行います。					
評価	1 技術を伴う演習は、全て出席することが試験を受ける条件となる。 2 成績評価並びに単位の認定に関する規程・細則に準ずる。 3 演習に必要な学習と演習にふさわしい身だしなみを整えることが、演習参加の条件である。			試験	80	
				技術試験	20	
				合計	100	

科目名	生活援助技術Ⅲ			単位(時間)	1(20)	
担当講師名	科目責任者 土井 恵子 赤穂 美紀[看護師] 佐川 香織[看護師・非常勤講師]			対象学年	30期生 1年次	
				DP	1・2・4	
ねらい	対象の安全で安楽な環境を整え、日常生活を支える基本となる看護技術を学び、習得することで実践力の向上を目指す。また、看護の対象を生活者と捉え、その日常生活を整えるために必要な食事・排泄の看護技術の基本を学ぶ。					
科目目標	1 食事の援助に必要な基礎的知識を理解し、援助技術を習得できる。 2 排泄の援助に必要な基礎的知識を理解し、援助技術を習得できる。					
授業内容	次	単元	内容	形式	担当者	備考
	1	食事の援助技術	1 食事と栄養のアセスメント	講義 演習	佐川	
	2		2 治療食、療養食			
	3		3 食事介助が必要な人への援助 ★			
	4		4 非経口的栄養摂取の援助 1)経管・経腸栄養法 2)経静脈栄養法			
	5	排泄の援助技術	5 食事と栄養の意義と看護	講義 演習	赤穂	
	6		1 排泄のアセスメント			
	7		2 自然な排泄を促す援助			
	8		3 自然な排泄が困難な人への援助 1)浣腸 ★ 2)一時的導尿 ★			
	9	4 排泄の意義と看護				
	10		試験			
テキスト	<eテキスト> 基礎看護技術Ⅱ 栄養学 根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術 <テキスト>看護がみえる①基礎看護技術 ②臨床看護技術(メディックメディア) <参考書>					
学習を支える 情報	1 患者の基本的ニーズを捉えその人の生活を整える技術を学びます。 2 学習を進めるにあたり「形態機能学Ⅱ」「生化学」等の基礎知識を活用していきましょう。 3 グループで意見を交換しながら、患者の思いも大切に考えていきましょう。 4 テキストにある動画を活用し、具体的にイメージしたり、ポイントや留意などを確認した上で演習に臨みましょう。根拠に裏付けされた確実な技術を身につけられるよう、反復練習しながら学習していきましょう。 5 ★は演習を行います。					
評価	1 技術を伴う演習は、全て出席することが試験を受ける条件となる。 2 成績評価並びに単位の認定に関する規程・細則に準ずる。 3 演習に必要な学習と演習にふさわしい身だしなみを整えることが、演習参加の条件となる。			試験	食事 40	
					排泄 50	
				レポート 課題	食事 10	
				合計	100	

科目名	臨床看護総論			単位(時間)	1(30)	
担当講師名	科目責任者 土井 恵子 赤穂 美紀[看護師] 伊藤 知恵[看護師] 野沢 英理子[看護師]			対象学年	30期生 1年次	
				DP	1・2・4	
ねらい	健康障害をもつ対象の状態に合わせた処置や検査時の看護を学ぶ。また、安全かつ安楽に実施するための技術の習得および、実施時における倫理的態度を養う。					
科目目標	1 経過別看護および治療過程における基本的な看護を学ぶ。 2 呼吸・循環を整えるために必要な基礎知識と基本技術を学ぶ。 3 診察・検査・処置の介助に必要な基礎的知識と基本技術を学ぶ。 4 与薬をするために必要な基本的知識を理解し、援助技術を習得する。					
授業内容	次	単元	内容	形式	担当者	備考
	1	経過別看護	1 経過別看護の概念 2 各期の特徴と看護	講義 演習	赤穂	
	2	呼吸・循環管理の看護	1 吸入 1) 酸素吸入療法 (酸素ボンベ・酸素マスク・カニューレ) ★		伊藤	
	3		2 吸引 1) 一時的吸引(口腔・鼻腔・気管内) ★			
	4		3 排痰ケア(体位ドレナージ) ★			
	5	検査・処置時の看護	1 検体検査の取り扱い・検査所見 2 穿刺時の看護(胸腔・腹腔・腰椎・骨髄) 3 採血の実際 ★ 4 心電図の実際 ★ 5 検査・処置時の看護師の役割		野沢	
	6					
	7					
	8	与薬時の看護	1 与薬の基礎知識			
	9		2 薬剤の種類と与薬方法 3 注射の準備・実際 1) 皮下注射 ★ 2) 皮内注射 3) 筋肉注射 ★ 4) 静脈内注射 ★			
	10					
	11					
	12					
	13					
	14	4 輸血時の種類と取り扱い方法 5 輸血時の看護				
	15		試験			
テキスト	<eテキスト> 基礎看護技術Ⅰ 基本技術Ⅱ 臨床検査 根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術 <テキスト>看護がみえる②臨床看護技術 <参考書>					
学習を支える 情報	1 健康障害の経過や診察・検査・処置の側面から臨床看護を学びます。 2 これまで学んだ「検査と治療」「薬理学」「基本技術Ⅰ」「看護倫理」等の基礎知識をふまえ、対象にとっての安全・安楽を考慮した診療の補助技術を習得しましょう。 3 呼吸が障害されている対象への看護を学ぶために、医療機器業者の協力を得て人工呼吸器の取り扱いを学習します。 4 テキストにある動画を活用し、具体的にイメージしたり、ポイントや留意点などを確認した上で技術を確認した上で演習に臨みましょう。 根拠に裏付けされた確実な技術を身につけられるよう、反復練習しながら学習していきましょう。 5 ★は演習を行います。					
評価	1 技術を伴う演習は、全て出席することが試験を受ける条件となる。 2 筆記試験で評価する。			試験	経過別 10	
					呼吸循環 20	
					検査処置 20	
					与薬 50	
				合計	100	

科目名	基礎看護学実習		単位(時間)	2(90)
担当講師名	土井 恵子[看護師]他		対象学年	30期生 1年次
			DP	1・2・3・4
ねらい	基礎看護学実習は、各看護学実習の基盤として位置づけられる。基礎看護学で学んだ看護の概念・目的・対象・方法論をもとに、対象とかかわりながら、健康障害のある対象を理解する。対象の願いを捉え、対象の状態や思いに沿った看護を実践する能力を養う。さらに健康障害にある対象を理解し、対象の願いを捉え、対象の状態に合わせた看護実践を身につける。			
科目目標	健康障害のある患者を理解し、患者の願いを捉え、状態や状況に応じた看護を学ぶ。			
実習場所 スケジュール 実習内容	【実習場所】 公益社団法人 柏医療公社 柏市立柏病院 医療法人社団 協友会 柏厚生総合病院			
	日程	内容	方法	臨地・学内
	1	基礎看護学実習ガイダンス	基礎実習のねらい、目的・方法を理解する。 臨地実習を行うために自分で行うべき準備を整える。	学内
	2	フロアオリエンテーション ビジョン・ゴール設定 対話 実習準備	病棟の特徴や看護体制を理解し、臨地実習を行うための準備を整える。 (技術練習・カンファレンス運営)	学内
	3			
	4			
	5	病棟オリエンテーション 受け持ち紹介・看護実践・ 思考の整理・全体像	1 患者を1名受け持ち看護を実践する。 2 日々の学習はポートフォリオやリフレクションノートに残す。 3 患者の健康障害や治療、入院環境などが身体面・心理面・社会面に及ぼす影響を考え、生活がどのように変化したのかを捉える。	臨地
	6			
	7			
	8			
	9	看護実践・中間評価	患者の全体像をふまえたビジョン・ゴール	臨地
	10	看護実践・評価・修正	患者の状態に合わせた日常生活援助を、安全・安楽・自立の視点をふまえて実践する。	
	11			
	12			
	13			
14	再構築 プレゼンテーション・対話	1 自己の成長や実習の学びをまとめる。 2 学びの共有と自己の課題を発見し、対策を講じる。	学内	
15				
テキスト	<eテキスト>基礎看護技術Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 解剖生理学 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 NANNDA-I看護診断 2024-2026 <テキスト>看護がみえる③フィジカルアセスメント ④看護過程の展開など 看護師の基本的責務(日本看護協会出版会) <参考書>看護過程を使ったヘンダーソン看護理論の実践(ヌーヴェル ヒロカワ)			
学習を支える 情報	1 実習要綱を熟読し、学習の指針であるルーブリックをもとに、ビジョン・ゴール・具体的な戦略を立てて実習に臨みましょう。 2 これまで基礎看護学で学んだ知識・技術を復習し十分練習しておきましょう。 3 基本技術Ⅱで学んだ看護の展開技術を実践で活かしましょう。他者と意見交換をしながら、看護の視点を広げていきましょう。 4 看護学生としての倫理観や責任を踏まえて行動し、自己の課題を解決する姿勢を持ちながら、主体的に学習していきましょう。			
評価	1 成績評価並びに単位の認定に関する規程・細則に準ずる。 2 実習評価は、ルーブリックで総合的にこなう。			